

## 6. AEDを使えるようになろう

教室名：日本語教育リソースルーム

(常設の教室はない)

※既に決まったカリキュラムがある継続的な日本語教室では新たに「行動・体験型活動」を組み込むのは難しいという声もあり、教室を持たない(公財)愛知県国際交流協会のリソースルームが、モデル的に単発で行動・体験型の教室活動を実施しました。

**参加学習者** : 9月3日 3名(ベトナム2名、中国1名)、9月6日 1名(ミャンマー1名)

**ボランティア** : 9月3日 5名、9月6日 8名

**外部協力者** : 9月3日 1名、9月6日 2名(日本赤十字社愛知県支部)

### 学習者の状況

- ベトナム人2名は名古屋に引っ越してきたばかり。
- 中国人は配偶者が日本人
- 日本語の発話が難しい。
- 学習者は初級後半レベル

### 学習者の声

AEDの存在は知っているが、使い方や設置場所はわからない。

### 目標

- 緊急の場面で人の助けを呼べるようになる。
- 心肺蘇生ができるようになる。
- AEDを使えるようになる。

## 活動の流れ

1日目：9月3日(土)・6日(火) 13:00~16:00 (180分)		
活動1	35分	人を助ける重要性を知る
活動2	10分	AEDとは
確認1	10分	わかったことを確認
<休憩> 10分		
活動3	70分	心肺蘇生講習(含AED講習)
確認2	10分	ワークシート記入
<休憩> 10分		
確認3	45分	ふりかえり 気付いたことを話す

※ 9月3日と6日は同じ内容で実施した。

## 事前の準備・下調べ

- AED についての基礎知識をつけておく。
- 協力者との打合せを行う。
- アイスブレイク用の人体パズル、ネームカード作成、その他の準備も兼ねたミーティングを行う。

## 活動1 人を助ける重要性を知る

1. アイスブレイクとして、名前・国・好きな動物を書いた名札を作り、自己紹介をしました。
2. 人体パズルゲームで臓器の位置を考えました。  
→日本赤十字社より解説を受けました。
3. 倒れている人のイラストを見て、その時どうするか考えました。



用意したもの  
パソコン  
人体イラストとパズル  
倒れている人のイラスト



次のことばを説明しました

肺・心臓・胸骨



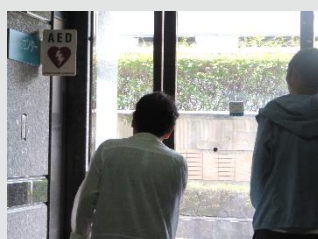
ここがポイント

初めてくる学習者がいる場合はアイスブレイクで、簡単な自己紹介ができる  
と、後の活動がやりやすくなります。

## 活動2

## AEDとは

1. AEDの写真を見て、AEDを見たことがあるか、どこで見たかを話しました。
2. いろいろな場所にAEDがあることを知りました。



用意したもの  
AEDの写真  
(街に設置してあるもの)



学習者からこんな日本語ができました

病院・コンビニ



次のことばを説明しました

AED・学校・スーパー・駅・マンション



ここがポイント

会場の施設にはAEDが備え付けられていたので、実際に見にいきました。写真だけでなく、実物を見ることが大切です。

## 確認1

### わかったことを確認

1. 人体とAEDについてわかったこと、わからなかったことを確認しました。  
(グループ別で話し合い、全体発表、共有)
2. AEDの音声を少し流し、休憩後にやることを聞きました。

用意したもの

ワークシート

## 活動3 心肺蘇生講習(含AED講習)

1. パワーポイントの資料を見ながら、心肺蘇生法やAEDについての解説を聞きました。
2. 人形等を使用しながら、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの体験をしました。



用意したもの

プロジェクター  
スクリーン、マイク  
ワークシート

## 確認2

### ワークシート記入

ワークシートに、わかったことやわからなかったことを記入しました。



用意したもの

ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

- 「赤十字」はミャンマーにもある。
- 忙しい。(胸骨圧迫や人工呼吸が大変だということ)



次のことばを説明しました

- 心肺蘇生・胸骨圧迫・人工呼吸・赤十字
- 誰か来てください。
- AEDをもってきてください。
- 119番に電話してください。



ここがポイント

救命は一人では難しいので、周囲の人と協力することが大事です。日本人も外国人も声を掛け合う、一緒に対処する練習です。



学習者からこんな日本語ができました

- 面白かった。
- 初めて。
- AED、使い方がわかった。

### 確認3 ふいかえり 気付いたことを話す

1. 講習の写真をしながら、流れをふりかえりました。
2. 命を助けるためにできることやわかったこと、わからなかったことをワークシートに書き出して、ひとりずつ発表しました。(3日はワークシートだけではなく模造紙を使って発表しましたが、6日は学習者が1名だったため、口頭のみで発表しました。)



学習者からこんな日本語ができました

- 大事なこと、わかりました。
- 警察に(を)よぶ。
- 119番に電話。



ここがポイント

難しい漢字が読めなかったりしても、実際にAEDを使用した経験が自信になります。

### 実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- 知っているつもりだが、何回も体験した方が良い。
- 用語が難しいので大変。
- 学習者がとてもできるようになって感動した。
- 今回は日本語が比較的できる学習者だったが、そうではない場合どうするか。
- 事前申込がなかった学習者が突然来た場合、どのように対応するか。



大切だと思ったこと

- 心肺蘇生講習の時に体を動かしたりかがんだりするので、「動きやすい服装」等の情報を事前にお知らせしておいた方がよかった。
- 日本語教室においても、また実際にAEDを使用する際にも、地域や周りの人との連携が大切。

## 6 AEDを使えるようになろう 活動案

テーマ/目標	「AED」使い方を知ろう／「AED」を使えるようになる
テーマ決めの経緯	運動会で倒れた児童に対してAEDの使用を躊躇したために、助けられなかったという悲劇がありました。AEDの使い方を知っていれば、救える命がある。命を守るために必要な日本語を学ぶことをねらいとした。
活動場所	あいち国際プラザ
協力者	日本赤十字社愛知県支部

**1日目：9月3日（土）・6日（火）13：00～16：30（210分）※同内容を2日間実施**

活動のねらい	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動1 人を助ける重要性を知る	パソコン 人体イラストとパズル 倒れている人のイラスト	1. アイスブレイク「名札を作ろう」 2. 人体パズルゲームで臓器位置を確認 3. イラストを見てグループ別で、その時どうするかイメージし発表、共有
活動2 AEDとは AED用語	AEDの写真 (街に設置してあるもの)	1. AED写真を見て、見たことあるか、グループ別で話し合う 2. 用語について
確認1	ワークシート	人体とAEDについてわかったこと、わからなかったことを確認（グループ別で話し合い、全体発表、共有）
活動3 心肺蘇生講習 (含AED講習)	プロジェクター スクリーン マイク ワークシート	1. 外部協力者による心肺蘇生講習 2. 体験
確認2	ワークシート	わかったこと、わからなかったことを記入 ※ボランティアはデモンストレーション中の学習者の発話（疑問、質問等）をメモ
活動4 ふりかえり 心肺蘇生（含AED） 講習での気づき等	活動3時の様子の写真	1. 活動時の写真を見ながら流れを振り返る 2. グループでスキット（必要5用語） 3. グループ別でわかったこと、わからなかったこと
確認3	ワークシート	1. わかったこと、わからなかったことを記入 2. 全体発表、共有



# AEDを使えるようになろう

## 目標

- ・緊急の場面で人を呼べるようになる
- ・心肺蘇生ができるようになる
- ・AEDが使えるようになる



あいち国際プラザ  
日本語教育リソースルーム

開催日 2016年9月3日（土曜日）13:00～16:00  
2016年9月6日（火曜日）13:00～16:00

参加者 学習者 4名（A1/A2 ミyanmar 中国）  
ボランティア 13名  
外部協力者 3名（日本赤十字愛知県支部）

---

一  
時  
限  
目

**活動1** アイスブレイク【自己紹介】

名札に「名前」と「好きな動物」を書き、ボランティアと協力者も一緒に輪になって自己紹介



**活動2** 人体バズル

原体のイラストに学習者が心臓、肺、肋骨などのイラストパーツを貼っていく。



日赤からの協力者に内蔵の位置などについて説明してもらう

**活動3** AEDを知っていますか？

①人が倒れているイラストを見て、自分ならどうするかを考え、話し合う。



②街中に設置してあるAEDの写真を見て、どんなものか話し合う。

---

二  
時  
限  
目

**活動1** 心肺蘇生とAEDについて学ぶ

協力者（日本赤十字社）から心肺蘇生の重要性と方法、AEDの使い方について話を聞く。



**活動2** 心肺蘇生の実践

人体模型を使って、胸骨圧迫、人工呼吸、AEDの体験をする。



人工呼吸

AEDを準備する

AEDを装着する

AEDを使う

---

三  
時  
限  
目

**活動1** 体験を振り返る

活動時の写真を見ながら、心肺蘇生とAEDの流れを振り返る



**活動2** 体験の定着

学習者だけで一連の流れを繰り返す



グループで話し合い、まとめたことを紙に書いて発表する



---



実践を終えて

【ボランティアの感想】

- ・知っているつもりだが、何回も体験した方が良い
- ・用語が難しいので大変

【大切だと感じたこと】

- ・倒れている人がいたら、見過ごさない（無関心でない）
- ・早い119番通報
- ・一人で背負わず、協力者を集める
- ・悪気を出さず、助けに行く
- ・連携が大切



# 7.地震について知ろう

教室名 : あいち国際プラザにほん語教室  
教室開催日 : 金曜日 19:00~20:30  
学習者の国籍 : 中国・アメリカ・ミャンマー・ブラジル  
モンゴル・台湾・ウクライナ  
レベル : 入門から初級、中級が多く、上級者もいる

参加学習者 : 7名 (中国、アメリカ、ミャンマー、ブラジル、モンゴル、台湾、ウクライナ)  
ボランティア : 7名  
外部協力者 : 1名 (愛知県防災局防災危機管理課)

## 学習者の状況

地震を知らない国の方もいる。

## 学習者の声

日本では地震が多いが、最近の名古屋では小さな地震のみ。

## 目標

地震を知り、地震に備えることができる。

## 活動の流れ

1日目：9月23日(金) 19:00~20:30 (90分)		
活動1	60分	地震について知る
確認1	30分	わかったこと、思ったことを発表
2日目：9月30日(金) 19:00~20:30 (90分)		
活動2	60分	地震の備えについて知る
確認2	30分	わかったことを発表する
3日目：10月7日(土) 19:00~20:30 (90分)		
活動3	20分	第三者への情報提供ができる
活動4	70分	地震について発表する

## 事前の準備・下調べ

- 地震の映像を準備する。
- 愛知県防災局との打合せを行う。
- 防災カード等の用意をする。

活動1

地震について知る

1. 名前・国・好きな食べものを書いた名札を作り、自己紹介をしました。
2. 地震の動画を見ました。
3. 動画を見た感想を話しました。
4. 地震が起こった時にとる行動として、机に潜る練習をしました。
5. 地震への備えについてボランティアと話しました。
6. 教室の最寄りの非常口の場所を確認しました。



用意したもの

パソコン、ペン  
紙、クリップ

確認1 わかったこと、思ったことを発表

ワークシートに今日の活動でわかったこと、思ったことを記入し、発表しました。



用意したもの

ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

- びっくりした。
- この日のことは忘れないよ。
- ほんとに怖いですね。



こんな日本語を伝えました

頭を守る



次のことばを説明しました

家具の固定・非常口・備蓄



ここがポイント

実際に起きた映像を見る、身体を使って体験することは記憶に強く残ります。



学習者からこんな日本語ができました

- 地震はこわい。びっくりした。
- もぐるということばを覚えた。



こんな日本語を伝えました

もぐる・おさまる



## 活動2

## 地震の備えについて知る

愛知県防災局の県政お届け講座（出前講座）を聞きました。（家具の固定、備蓄品など）



用意したもの  
パソコン  
プロジェクター  
ルビをふった資料

## 確認2

## わかったことを発表する

ワークシートにわかったこと、思ったことを記入し、発表しました。



用意したもの  
ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

- 防災具はどこで買えますか？
- 家具の固定具はどこで買うことができる？



次のことばを説明しました

- 家具の固定・食糧の備蓄
- ローリングストック
- 171・災害用伝言ダイヤル
- 日本は地震大国。
- 自分の身は自分で守る。



ここがポイント

外部協力者の中には外国人に話すことが初めてという方もいます。話が長くなったり、難しい言い回しになったりしますが、そういう時こそボランティアの出番。そばにいて、わかりやすい日本語でサポートすると、学習者は理解しやすくなります。



学習者からこんな日本語ができました

- ことばはわからないけど、意味はわかりました。
- 食糧の備蓄、買います。
- 家具の固定、わかりました。
- 愛知県は大きい地震がなつかしいから大きい地震がくる。(大地震がしばらく起こっていないから、大地震が起こる可能性が高いということ)
- 準備なことは(地震に備えることは)、大切なことです。
- 家具の上は、ものは置かない。
- 今日のテーマは重要です。



ここがポイント

初級者が多いと、用意された題材を消化しきれないこともあります。学習者に伝えたい内容を絞って、話し合う時間を多くすると、個々の力に合った活動ができます。

### 活動3 第三者への情報提供ができる

1. (公財)愛知県国際交流協会発行の防災チェックガイド（多言語版）裏表紙にある防災カードに、災害時にすぐ提示できるように、自分の情報を記入しました。
2. 前回の講座のアンケートを記入しました。
3. 災害ダイヤルのかけ方を学びました。



用意したもの

防災チェックガイド  
県政お届け講座のアンケート



学習者からこんな日本語ができました

- 災害ダイヤルの案内の言葉が解らない。
- 町内会はなに？
- 防災の練習参加したことなかった。
- 固定はなに？
- 頭を守る。



次のことばを説明しました

防災カード・ハザードマップ  
非常用食糧・町内会・避難場所

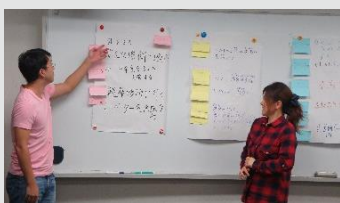


こんな日本語を伝えました

地震のときは、エレベーターを使わない。

### 活動4 地震について発表する

地震についてわかったこと、地震に備えてこれから準備したいことを発表しました。



用意したもの

ワークシート、模造紙  
付箋、マジックペン



学習者からこんな日本語ができました

逃げるのが大切。



ここがポイント

- 皆の前で日本語で発表する経験はあまりないので、これもいい体験です。さらに、家族や知り合いの外国人にも防災について伝えられます。
- 夜の教室はボランティアも学習者も仕事後で忙しそうですが、お互いの笑顔や何気ない一言で和やかな雰囲気になっています。参加したくなるような教室の雰囲気作りも大切なことですね。

### 実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- ボランティア間の打ち合わせがもっと必要。
- まず日本語が解らないと理解が難しい。
- 学習者の参加数が多く良かった。
- わかってほしいことが学習者に伝わっていた。



大切だと思ったこと

- まず、下準備が大切。
- 学習者の日本語の理解度にあわせ解りやすく行う。



ここがポイント

日本語がわからない学習者が、日本社会で安心して暮らしていただけるためにどうすればいいか、地域の日本語教室の役割を考えるいい機会ですね。

# 7 地震について知ろう 活動案

テーマ/目標	地震について知ろう/地震に備えることができる		
テーマ決めの経緯	日本は地震が多いので、外国から来た人が地震を知り備えることができるようにする。クラスのボランティア全員で話し合い決定した。		
活動場所	あいち国際プラザ	あいち国際プラザ	あいち国際プラザ
協力者	—	愛知県防災局 防災危機管理課	—

1日目：9月23日(金) 19：00～20：30 (90分)		
活動のねらい(時間)	準備・教材	活動方法(対話と協働)
活動1(60分) 地震について知る	写真 動画	1. アイスブレイク(自己紹介) 2. 地震の写真・動画を見る 3. 見た感想を話し合う 4. 自分の国の地震について発表する 5. 地震発生時の対処法を体験する
確認1(30分)	—	動画を見てわかったこと、思ったことを発表する

2日目：9月30日(金) 19：00～20：30 (90分)		
活動のねらい(時間)	準備・教材	活動方法(対話と協働)
活動2(60分) 地震への備えについて知る	—	家具の固定、食料の備蓄等について説明を聞く
確認2(30分)	—	今日の活動をふり返り、わかったことをまとめ発表する

3日目：10月7日(金) 19：00～20：30 (90分)		
活動のねらい(時間)	準備・教材	活動方法(対話と協働)
活動3(20分) 災害時に第三者への 情報提供ができる	防災カード	.防災カードの説明をし、記入をする
確認3(70分) 地震についてわかった ことを伝える	模造紙 付箋 マジックペン	地震についてわかったことを付箋に書いて模造紙に貼り、 発表する



# 地震について知ろう

場所: あいち国際プラザ

あいち国際プラザ

日時: 金曜 19:00~20:30

日本語教室金夜クラス

## 活動1 地震について知る

- ① 地震の動画を見て感想を話し合う
- ② 地震発生時の対処法を体験する



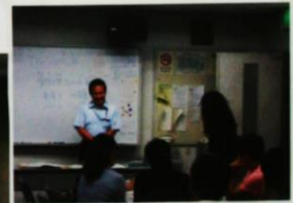
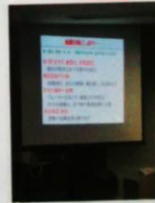
非常口



机の下に  
"もぐる"

## 活動2 地震への備えについて知る

- ① 家具の固定、食料の備蓄について説明を聞く  
(協力者: 愛知県防災局防災危機管理課)

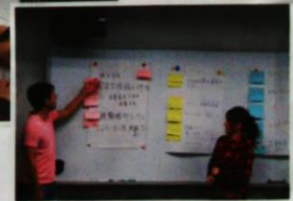


## 活動3 災害時に第三者への情報提供ができる

- ① 防災カードの説明をし、記入する



防災カード



ふりがえり

- ・ 言いたい事が伝わった(頭を守る) ・ "もぐる"も知った
- ・ 家具の固定がわかった ・ 協力者との事前打合せが足りなかった



# 8. 地震に備える

教室名 : にほんごひろば  
教室開催日 : 木曜日 10:00~11:30  
学習者の国籍 : ベトナム、韓国、フィリピン、中国、インド  
レベル : 入門から初級前半と中級が多く、上級もいる

参加学習者 : 1日目8名、2日目5名、3日目6名 (ベトナム、韓国、フィリピン、中国、インド)  
ボランティア : 1日目10名、2日目10名、3日目11名  
外部協力者 : 2日目1名 (あいち防災リーダー)

## 学習者の状況

地震の恐怖は感じているものの、ほとんど備えをしていない。

## 学習者の声

地震に関する情報を知りたい。

## 目 標

地震が起きるとどうなるかを知り、具体的な備えができるようになる。

## 活動の流れ

1日目: 9月15日(木) 10:00~11:30 (90分)		
活動1	45分	地震が起きるとどうなるかを知る
活動2	15分	各自の避難所を知る
確認1	30分	今日学んだことをふりかえる
2日目: 9月29日(木) 10:00~11:30 (90分)		
活動3	5分	前回の活動をふりかえる
活動4	55分	防災についての講習を聞く
確認3	30分	今日学んだことをふりかえる
3日目: 10月6日(土) 10:00~11:30 (90分)		
確認4	25分	これまでの活動をふりかえる
活動5	35分	ポスターを作成し、発表する
活動6	30分	非常食を食べてみる

## 事前の準備・下調べ

- 学習者が住んでいる安城市、刈谷市、知立市発行のハザードマップを入手する。
- 安城市危機管理課で防災DVDを借りる。
- 以前から面識のあった「あいち防災リーダー」に防災講習を依頼し、打合せをする。
- ボランティア同士の打合せをする。
- 今回の特別授業のチラシを学習者およびその知り合いに配布し、学習者を募集する。
- 当日使用する資料を作成する。
- 使用機器 (プロジェクター、マイクなど) の手配をする。

## 活動1 地震が起きるとどうなるかを知る

1. ハザードマップの「地震が起きるとどうなるの?」を見ながら、絵と文字で地震について学びました。
2. 防災DVDを見て、映像でさらに理解を深めました。



### 用意したもの

ハザードマップ  
防災DVD、マイク  
プロジェクター  
スクリーン  
ワークシート

## 活動2

## 各自の避難所を知る

1. ハザードマップの地図上で、自宅の場所にシールを貼りました。
2. 学習者の自宅からの最寄りの避難所を探し、シールを貼りました。



### 用意したもの

ハザードマップ  
シール



学習者からこんな日本語ができました

- 言葉が難しい。
- 怖い。
- 171はなんですか?
- 液状化はなんですか?
- (地震が起きると)パニック。



次のことばを説明しました

地震・ブロック塀・液状化現象  
地盤が緩い・高い場所・電線・津波  
非常袋・避難準備・火を切る  
ブレーカー・緊急地震速報・避難所  
命を守る・停電・警告



こんな日本語を伝えました

- 災害用伝言ダイヤルは171です。
- 避難場所を確認しましょう。
- 防災用品を準備しておきましょう。



ここがポイント

進行役以外のボランティアも、活動の内容に沿って学習者を補助することができました。ボランティア間の打ち合わせは、活動上欠かせません。



学習者からこんな日本語ができました

(地図で) 自分の家がなかなか見つからなかった。

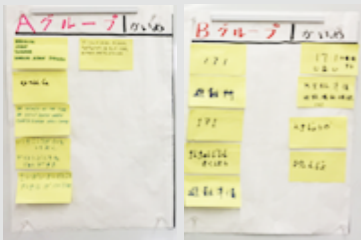


こんな日本語を伝えました

避難所と避難可能施設は違う。

## 確認1 今日学んだことをふりかえる

1. 今日の活動でわかったことを付箋に書きました。
2. 付箋に書いたことを、ひとりずつ発表しました。
3. 教室全体を2つのグループに分けて、グループ毎に模造紙に付箋を貼りました。



用意したもの

付箋、模造紙  
マジックペン



学習者からこんな日本語ができました

- 心構えをしておく。
- 机の下に隠れるべきです。
- パニックにならない。
- たべものともみずもよういします。

## 活動3 前回の活動をふりかえる

進行役ボランティアから、前回の概要を聞きました。



用意したもの

ハザードマップ  
ワークシート

## 活動4

## 防災についての講習を聞く

1. 防災の専門家を講師に迎え、パワーポイントで地震についての写真や動画を見ながら、説明を聞きました。
2. 被災時に多用途に使えるゴミ袋を使って、雨よけマントを作りました。
3. 講師自身の非常用持出袋を見せてもらいました。



### 用意したもの

ゴミ袋（マント用）  
マイク、スクリーン

## 確認3

## 今日学んだことをふいかえる

1. 今日の活動でわかったことを付箋に書きました。
2. 付箋に書いたことを、ひとりずつ発表しました。
3. 教室全体を2つのグループに分けて、グループ毎に模造紙に付箋を貼りました。



### 用意したもの

付箋、マジックペン  
模造紙



学習者からこんな日本語ができました

- なぜ長靴がよくないか？
- なぜ杖をついていくのか？
- 日本のビルの耐震は震度いくつまで耐えられるか？



こんな日本語を伝えました

- 長靴は脱げてしまう。
- 運動靴の方が歩くことができる。
- 避難所と一時避難所は違う。



次のことばを説明しました

ピッチFM・シェイクアウト



学習者からこんな日本語ができました

- 地震のとき起きます。準備します。頭と足を守ります。
- 地震のとき、水は大事。
- 地震のとき、運動靴をはきます。



## 確認4

### これまでの活動をふりかえる

防災知識としての定着のため、1日目と2日目の活動で学習者から出た「わかったこと」について復習しました。

地震（じしん）について わかったこと	Aグループ	Bグループ
	ひなんじょ	171
	HINANJIYO	171
	JISHIN	171
	TSUNAMI	避難所
	KINKYU JISHIN SOKUHO	ひなんじょ
1かい	Be ready all the time. We don't know when earthquake will come.(いつでも じゅんぴをしておく。じしんは いつく	避難場所確認
め	か わかりません)	
	いつも ころがまえ をしておく。	さんきゅうじしんそくほう
	ひじょうぶくる を じゅんぴする。	避難準備
	さいがいようでんさんダイヤル が 171	防災用品準備
	テーブル の した にかくれます。	えきじょうか
	きゅうきゅうばこ を もっています。	
	たべもの と みず も よういします。	
	いちばん ひつようなものは みずです。	じしん のとき におきます。
	ひとり1日に3Lがひつよう。	じゅんぴ をします。
2かい	1 しゅうかん=21L	あたま と あし を もって。
め	じしん が おきたら まわりのひとと たずねあいます。	hinanjo: asahi-machi, nishiki-machi elementary school
	じしん が おきるときに うんどうぐつ をはきます。	緊急地震速報
	Things to prepare : helmet, shoes, whistle, water (じゅんぴするもの: ヘルメット、くつ、ホイッスル、みず)	

#### 用意したもの

これまでに学習者から出た「わかったこと」をまとめた一覧表

## 活動5

### ポスターを作成し、発表する

1. ふりがえったことの中から各自2つテーマを選びました。
2. ボランティアと学習者がペアで、A4用紙に選んだテーマについて書きました。
3. グループ毎に模造紙にA4用紙を貼りポスターを作りました。
4. 学習者が、自分の書いたことについて発表しました。



#### 用意したもの

A4用紙、模造紙  
マジックペン、のり



学習者からこんな日本語ができました

こわい・津波



次のことばを説明しました

水は1日3リットル必要



ここがポイント

地震に備えるためには本当にたくさん  
のことを学ぶ必要がありますが、あまり  
欲張らず、同じことをさまざまな手  
法で繰り返し学ぶことが定着につなが  
ります。

## 活動6

## 非常食を食べてみる

1. 非常食（白飯、五目ご飯、乾パン、缶詰パン）を試食しました。
2. 気に入った非常食にシールを貼り、どんな食料を備えたいか、考えました。



用意したもの

非常食、シール



学習者からこんな日本語ができました

- これはどこで売ってますか？
- 私はこんなもの見たことないです。
- すすしい水でもできますか。
- これはなに？



こんな日本語を伝えました

ホームセンターやスーパーマーケットで売っています。



次のことばを説明しました

非常食



ここがポイント

「非常食」を知らない人も多いため、実際に食べることで、防災意識も高まります。

## 実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- DVDの映像で何となく理解できたという入門レベルの学習者もあり、様々な日本語レベルが混ざる活動の場合、映像は特に有効だと思う。
- 防災講習は途中で区切りながら行って、随時、学習者の理解状況を確認しながら進めた方が良かった。
- 防災講習のレベルが日本人向けで、学習者には難しかった。
- 講師との事前の打合せで、もっと内容を整理して少なくする話し合いをするべきだった。
- 全体のテーマ自体をもっと絞った方が良かった。
- プロジェクターの事前確認では映像のチェックしかしていなかったが、実際には音声の出力に問題があった。事前確認は音声確認も重要である。
- 学習者向けにワークシートを作成し、それに沿って進めることで、指示が伝わりやすかった。
- 「ポスターにまとめる」とはどういうものを作るのか口頭説明だけでは分かりづらかった。作成例などを見せた方が良かったと思う。
- ボランティア同士のチームワークが良かった。



大切だと思ったこと

日頃から地域リソースや学習者のニーズを把握して、効果的な活動につなげること。

## 8 地震に備える 活動案

テーマ/目標	地震に備える/ 自分と家族の命を守るために		
テーマ決め経緯	教室担当者2名の話し合いにより決めた。		
活動場所	安城市文化センター	安城市文化センター	安城市文化センター
協力者	—	あいち防災リーダー	—

### 1日目：9月8日(木) 10：00～11：30 (90分)

活動のねらい(時間)	準備・教材	活動方法(対話と協働)
活動1 (30分) 地震について映像で知る	DVD パソコン スクリーン プロジェク ター ワークシート	1. 初めての学習者がいたらアイスブレイク(自己紹介) 2. DVDを視聴しながら分かったことをメモする。 3. ボランティアと一緒に新しく覚えた言葉や文をメモする。
活動2 (30分) 地震について文字や地図で知る	安城市ハザードマップ(やさしい日本語版 & 英語版)	1. ハザードマップから分かったことをメモする。 2. ボランティアと一緒にハザードマップで各自の避難場所を探し、避難所名などを書き込む。
確認1 (30分)	模造紙(2つ切り) 付箋	1. 今日の活動をふりかえり、分かったことをまとめ、発表する。 2. 分かったことを付箋に書き、模造紙で作った「防災の樹」に貼付ける。

### 2日目：9月15日(木) 10：00～11：30 (90分)

活動のねらい(時間)	準備・教材	活動方法(対話と協働)
活動3 (60分) <出前講座> 地震が来る前にすべき事を知る	DVD スクリーン プロジェク ター ワークシート	1. 「防災の樹」を見ながら1回目のふりかえり。 2. 講師による講習：家具の固定、ガラスにフィルムを貼る、枕元セット、非常用持出袋、備蓄などの用意。講習を聞きながら分かったことをメモする。 3. 皆で考える：枕元セットに入れるものは？など。 4. 災害伝言ダイヤルを試す。
確認2 (30分)	模造紙 (「防災の木」) 付箋	1. 今日の活動をふりかえり、分かったことをまとめ、発表する。 2. 分かったことを付箋に書き、模造紙で作った「防災の木」に貼付ける。

### 3日目：9月29日(木) 10：00～11：30 (90分)

活動のねらい(時間)	準備・教材	活動方法(対話と協働)
活動4 (60分) ふりかえり	写真(過去2回の様子) 模造紙 マジックペン ワークシート 付箋	1. 「防災の樹」を見ながら、1回目と2回目のふりかえり。 2. ボランティアと学習者がペアで、「地震について」分かったことをまとめて書く。 3. クラス全体をいくつかのグループにわけ、グループ毎に模造紙にポスターを書く。 4. グループ毎に代表者が発表する。 5. 他グループのポスターも見て大切なことに「賛成シール」を貼る。(学習者は2枚シールを持つ)
確認3 (30分)	非常食 (飲み物も)	1. 非常食を試食し、良いと思うものに「美味しいシール(仮名)」を貼る。 2. 「防災の樹」とポスターを見ながら、活動全体のふりかえり。



# 「地震に備える」

## にほんごひろば

### 私たちの教室はこんなところ

- \*場所：安城市文化センター
- \*曜日、時間：木曜日、10:00~11:30
- \*学習者の国籍：フィリピン、中国、インド、ベトナム、韓国、ペルーなど
- \*活動：レベル別のグループレッスンをしている。その他に、月1回 教室全体の交流をはかるためにティータイムも行う。

### 準備

- \*ハザードマップ、防災DVDの入手
- \*防災講習の依頼
- \*ボランティア内の打ち合わせ
- \*ワークシートの作成
- \*プロジェクターなどの使用機器の手配
- \*チラシの配布



### 目標

地震が起きるとどうなるかを知り、具体的な備えができるようになる。

### 1日目

#### イメージをつかむ

素材：ハザードマップ、防災DVD  
内容：ハザードマップとDVDを見て、地震が起きるとどうなるかを知る。



#### 行動・体験する

内容：講師をお招きし、防災についての講習を聞く。



#### 地域リソース

パワーポイントで、実際の地震発生後の状況などを見せていただく。

### 3日目

#### ふりかえり

教材：1日目と2日目に学習者が「わかったこと」をまとめた一覧表  
内容：これまでの内容をふりかえり、次のポスター制作につなげる。



進行役：「皆さんがわかったことをふりかえりましょう」

#### 行動・体験する

素材：ハザードマップ  
内容：ハザードマップ上で、自宅と自宅から最寄りの避難所にシールを貼る。



「地図で自分の家がかなか見つかからない！」etc



防災の専門家の非常持ち出し袋の中身を拝見！

ゴミ袋で雨よけマント作り

#### 学びをつたえることができる

内容：ポスター制作&発表！



「避難所」と「避難場所」はどう違う？

#### ことば・表現を知る

内容：わかったことをボランティアと協力してことばで表現し、書いて発表する。



「液状化はなんですか？」「171?」「ことばがむずかしい」など。

#### ことば・表現を知る

内容：わかったことをボランティアと協力してことばで表現し、書いて発表する。



「長くつはどうしてダメですか?」「日本の耐震は震度いくつまで大丈夫ですか?」

#### 行動・体験する

内容：非常食を試食し、どんな食料を備えたら良いかを考える。



「水は1人1日3リットル、しかも7日分の備えが必要なんです!」

### 活動をふりかえって

- \*もっとテーマをしばった方が良かった。
- \*出張講座は途中で区切りって、学習者の理解状況を確認した方が良かった。
- \*ワークシートを元にスムーズに進行できた。

### 今後に向けての担当者コメント

- \*日頃から学習者のニーズや地域リソースを把握し、教室内で共有できると良い。
- \*防災について、今後も継続的に取り組めるシステムを作れると良い。



# 9. 家庭の防災

## 災害に備え自分のできることから始めよう

教室名 : あいち国際プラザにほん語教室  
教室開催日 : 火曜日 13:30~15:00  
学習者の国籍 : 中国、台湾、韓国 等  
レベル : 来日間もない初級から  
中・上級まで (大半は初級)

参加学習者 : 14名 (中国5名、台湾3名、韓国3名、フィリピン、フランス、ジンバブエ各1名)  
ボランティア : 9名  
外部協力者 : 3名 (名古屋市港防災センター、愛知県防災局防災危機管理課)

### 学習者の状況

最近、地震や台風などの自然災害が頻発しているが、どうしていいかわからない。

### 学習者の声

- 自分の国では地震も台風もない。
- 防災訓練をしたことがない。

### 目 標

災害に備え自分ができることから始める。

## 活動の流れ

1日目 : 9月27日(火) 13:30~15:00 (90分)		
活動1	60分	名古屋市港防災センター見学
確認1	30分	体験したこと、学んだことの確認
2日目 : 10月4日(火) 13:30~14:00 (30分)		
活動2	30分	防災センター見学の報告 (確認を兼ねた活動)
3日目 : 10月11日(火) 13:30~15:00 (90分)		
活動3	20分	自己紹介
活動4	60分	災害への備えについて話を聞く (県政お届け講座)
確認2	10分	聞いた話の確認
4日目 : 10月18日(火) 13:30~15:00 (90分)		
活動5	30分	避難ルートを確認する
活動6	40分	非常用持出袋を作ってみよう
確認3	20分	今日学んだことの確認

## 事前の準備・下調べ

- 県防災局防災危機管理課において、担当者と県政お届け講座の内容の確認をし、学習者の状況、日本語レベルを伝え、わかりやすい講座を依頼する。
- ボランティア全員で活動案の確認、資料の準備をする。
- 名古屋市港防災センター見学のためのイベント保険へ加入する。
- 4日目の活動で使用する、非常用持出袋の内容の検討と、ボランティアが手分けして持ち寄る実際の品物の確認、準備をする。

## 活動1 名古屋市港防災センター見学

防災センターにおいて

1. 煙避難体験をしました。
2. 地震体験をしました。
3. 3Dシアターで台風・津波の映像体験をしました。



用意したもの

防災センター資料



## 確認1 体験したこと、学んだことの確認

防災センター会議室において、今日体験したこと、学んだことをボランティアと確認しました。



用意したもの

活動記録用紙



学習者からこんな日本語ができました

- 日本語むずかしい。
- 怖い。
- 疲れた。



次のことばを説明しました

火事だ！・助けて！  
非常口・ブレーカー・地震  
煙・台風・津波



こんな日本語を伝えました

- 頭を守る。
- 非常口を探す。
- 火事するとき、口を布で覆う。
- 姿勢を低くする。
- 助けを求める。



学習者からこんな日本語ができました

- 地震のとき何をするか、わかった。
- 防災は重要。



ここがポイント

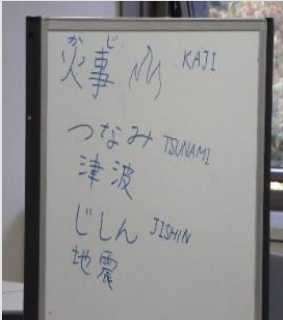
教室外の活動を教室から離れた場所で行う場合は、ふりかえりをする場所の確保が必要ですね。活動する建物内や近くで自由に使えるフリースペースなどがあるか事前に確認しておきましょう。

## 活動2

## 防災センター見学の報告

防災センターへ見学に行った学習者が見学に行けなかった学習者に、見学内容や体験したことを伝えました。

- ・地震の時どうしますか？
- ・火事の時どうしますか？
- ・津波警報が出たらどうしますか？



### 用意したもの

防災センター資料、  
やさしい日本語 防災  
用語、活動記録用紙  
ワークシート



### 学習者からこんな日本語ができました

- 地震、火事、津波はこわい！
- 私の国（韓国）では最近大きな地震があり、日本の専門家から話を聞いています。
- 「助けて！」



### こんな日本語を伝えました

- 地震の時、頭を守ります、窓を開けます、ガスを止めます、ブレーカーを落とします。
- 非常口を確認します。

## 活動3

## 自己紹介

1. 外部協力者の自己紹介を聞きました。
2. 学習者が自己紹介をしました。  
(名前、国籍、母国語で「こんにちは」を言いました。)



### 学習者からこんな日本語ができました

- はずかしい。
- がんばります。
- よろしくお祈いします。



### こんな日本語を伝えました

大きな声で、自己紹介してください。



### ここがポイント

外部から協力者に来てもらうと、自己紹介をしてみるいい機会になりますね。

## 活動4 災害への備えについて話を聞く

資料、DVDを使っの講座を聞きました。

- ・日本で過去に起きた地震と南海トラフ地震  
⇒地震はいつか必ず起きる
- ・個人でできる防災対策  
⇒家具固定、備蓄品、非常用持出袋、避難経路、連絡手段・



用意したもの

県政お届け講座資料  
防災減災お役立ちガイド

## 確認2

## 聞いた話の確認

いつものレベル別の学習グループに分かれて、ボランティアとわかったことやわからなかったことを確認しました。



用意したもの

活動記録用紙

## 活動5

## 避難ルートを確認する

1. 各自避難所マップを見て、自分の家・避難場所・避難ルートを確認しました。
2. 家族との連絡手段を考えました。
3. 171災害用伝言ダイヤルの使い方を知りました。



用意したもの

避難所マップ



学習者からこんな日本語ができました

- LINEやインターネットは？
- あらかじめってなに？
- ガイダンスは外国語対応できますか？
- 固定電話って？



次のことばを説明しました

事前の準備・あらかじめ  
自助・共助・公助



こんな日本語を伝えました

自分の身は自分で守る。



学習者からこんな日本語ができました

- 家具の固定。
- 171(災害用伝言ダイヤル)に電話する。
- 水の準備は大切。
- 自分の身は自分で守る。



学習者からこんな日本語ができました

(避難所マップで公園に一時避難場所のマークを見つけて) 公園も避難所？



こんな日本語を伝えました

日頃から近所の人と挨拶をし「助け合い」ができるような関係を作ることが大切です。



次のことばを説明しました

助け合い・コミュニティセンター  
避難所・学校



## 活動6 非常用持出袋を作ってみよう

1. 非常用持出袋に入れるものを一緒に考え、実際に  
入れてみました。
2. アルミ防寒着を着てみました。
3. 非常用持出袋を背負ってみました。
4. 非常食を試食してみました。



用意したもの

非常用持出袋持出品

## 確認3 今日学んだことの確認

いつもの学習グループで、各自がボランティアと非常用持出袋に入れたい物を書き出しました。感想を発表し、ふりかえりシートに覚えた言葉や文、思ったことを記入しました。



用意したもの

持出品リスト  
活動記録用紙  
シート



学習者からこんな日本語ができました

- アルミポンチョは暖かい。
- 非常食、おいしい。
- 旅行用洗顔料セットは？
- 歯ブラシ、石けんは？
- 通帳は？



次のことばを説明しました

非常用持出袋・カイロ・充電器  
健康保険証・コピー・懐中時計  
非常用持出袋・持出品・懐中電灯  
外国人登録証などのID・パスポート  
携帯電話用充電器・簡易トイレ



学習者からこんな日本語ができました

たくさんあります。  
(非常用持出袋に入れたいもの)



こんな日本語を伝えました

- 3日分の食べ物を備蓄しておいて。
- 薬はいりませんか？
- 赤ちゃんはいますか？
- メガネはいりませんか？

## 実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- 自分の国では地震や台風を経験したことがない学習者もいた。今回の防災センターでの疑似体験、県政お届け講座でのDVDを使った学習、非常用持出袋の実物を準備したことは、災害を体験したことのない学習者にもわかりやすく、良かったと思う。
- 今回の活動では、学習者が全日程に参加できなくても、参加して良かったと思ってもらえるよう、一回ごとにテーマを分けて活動を組み立てた。準備は大変だったが、学習者には喜んでもらえたと思う。
- 特に活動1と活動6の学習者参加型の活動は、レクチャー型活動より学習者の発話も多く、印象に残ったようだった。
- 県政お届け講座の担当者には、資料を特別にコンパクトにまとめていただき、やさしい日本語で、項目ごとにDVDを止めて解説、質疑応答の時間をとっていただくなど特別にご配慮をいただき、大変わかりやすい講座となった。
- プラザにほん語教室に通う学習者は、他の曜日の教室も受講している学習者が多いので、他教室と内容が重複しないよう調整できれば良かったと思った。



### 大切だと思ったこと

- 学習者に興味を持って参加してもらえるようなテーマを選ぶことが何よりも大切だと思った。今回は熊本地震、東北、北海道を襲った台風の後であり、プログラム終了直後には鳥取でも地震があり、学習者の関心も高く、印象に残る学習になったと思う。
- 協力者との事前の打ち合わせ、ボランティア全員で活動内容を確認し、打ち合わせを綿密に行うことは、活動を円滑に進めるうえで重要だと思う。

## 9 家庭の防災 活動案

テーマ/目標	家庭の防災 災害に備え自分ができることから始めよう！ ①避難所の把握。②非常持出品の用意。③家族との連絡方法。		
テーマ決めの経緯	最近災害（異常気象、地震等）が頻発しているので、各自備える事を学ぶ		
活動場所	港防災センター	あいち国際プラザ	あいち国際プラザ
協力者	港防災センター	愛知県防災局 防災危機管理課	—

### 1日目：9月27日(火) 13：00～15：00 (120分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動1（60分） 災害について見て、 学んで、体験する	各国語対応の資料 やさしい災害用語 カメラ 学習者の保険加入	1. 地震体験室で震度7を体験する 2. 伊勢湾台風を知る 3. 火災発生時の煙避難訓練を体験する
活動2（30分） 体験することで防災への 意識を高める	クリップボード 筆記具 書き込みシート	1. 防災センターで体験したことをメモする 2. 自分の身の守り方を知る
確認1（30分） ふりかえり	—	1. 体験したことでわかったことを話す 2. メモした言葉を確認する

### 2日目：10月11日(火) 13：30～15：00 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動3（60分） 防災危機管理の立場から 自分ができる防災を知る	やさしい災害用語 書き込みシート	1. 学習者の自己紹介 2. 防災危機管理課の人の話を聞く 3. わからないこと、気になったことをメモする
活動4（10分）	—	1. メモをもとに管理課の人に質問する 2. 質問と回答を記録する
確認2（20分） ふりかえり	—	1. メモしたことの確認をする 2. 講座を聞いて自分ができる防災、減災は何かを話す

### 3日目：10月18日(火) 13：30～15：00 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動5（30分） 災害時に自分の住んでい る所の避難所がどこなの か確認する	名古屋市各区の 避難所マップ(学習 者の住所確認) 災害用伝言板の使 い方(英、中、韓)	1. 地図を見て自分の家、避難所を知る 2. 避難所までの経路を考える 3. 災害時の家族との連絡方法を知る 4. 災害伝言ダイヤル(171)
活動6（30分） 非常用持出袋の中身を考 える	非常持出袋 必需品リスト 必需品リストカード ホイッスル 懐中電灯 非常食 書き込みシート	1. 非常用持出袋に入れるものを一緒に考える (リストの中から何が必要か) 2. 実際に非常用持出袋に入れてみる 3. 各自選んだ非常用持出品についてなぜそれを選択したか 話す 4. 必要なものはどこで買えるか、いくらくらいか
確認3（30分） ふりかえり	—	今回の学習で得たことを話し合う





# 家庭の防災



災害に備え自分でできることから始めよう！

最近地震、台風が多いけど  
どうしたらいいの？  
防災訓練？したことがない  
わたしの国には  
地震も台風もない

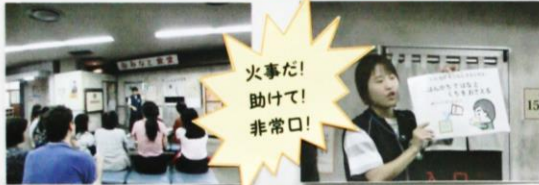


## あいち国際プラザにほんご教室 火曜日クラス

場所： あいち国際プラザ  
教室開催日： 毎週火曜日 13:30～15:00  
学習者の国籍：中国(5名)、台湾(3名)、韓国(3名)、  
フィリピン、ネパール、フランス、ジンバブエ(各1名)  
来日間もない初級から中上級まで(大半は初級)

### 1日目 (90分)

名古屋市港防災センターへ行きました



火事だ！  
助けて！  
非常口！



煙避難体験

地震体験

台風、津波映像体験

- ・にはん語むずかしい！
- ・怖い！
- ・座れたあ！
- ・地震の時刻をするかかった。
- ・防災は重要！

### 2日目 (30分)

防災センターの体験を話しました



- ・地震、火事、津波はこわい！
- ・私の国(韓国)で最近大きな地震がありました。日本の専門家から話を聞いています。

#### 《確認しました》

- |                                                                                                                             |                                                                                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>火事の時</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●非常口を確認する</li> <li>●口を布で覆う</li> <li>●姿勢を低くする</li> <li>●助けを求める</li> </ul> | <b>地震の時</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●頭を守ります</li> <li>●窓を開けます</li> <li>●ガスを止めます</li> <li>●ブレーカーを落とします</li> </ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 4日目 (90分)

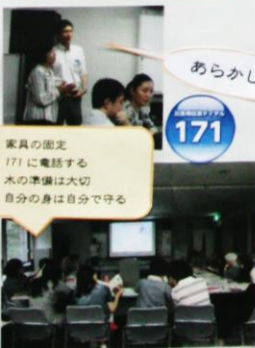
避難所の確認をしました



公園も避難所？

### 3日目 (90分)

県政お届け講座



あらかじめ

171

- ・家具の固定
- ・171に電話する
- ・木の準備は大切
- ・自分の身は自分で守る

#### 《講座内容》

- 地震はいつか必ず起きる！  
→自分の身は自分で守る！
- 個人でできる防災対策  
→事前の準備 今やろう！

非常用持出袋を作りました



#### 《他に持っていきたいものは？》

- ・旅行用洗面セット
- ・歯ブラシ
- ・石けん
- ・通紙
- ・下着

アルミボンチョ  
めったかーい！

#### 《実践を終えて（ボランティアの感想）》

- 一回だけの参加でもわかる活動は良かったと思う
- 学習者が関心を持って聴けるテーマを選ぶことは大切。
- 学習者参加型の活動は発話も多く印象に残ったと思う。
- 協力者との事前打ち合わせで、分り易い講座になった。





# 10. 地震から身を守ろう

教室名 : あいち国際プラザにほん語教室  
教室開催日 : 金曜日 13:30~15:00  
学習者の国籍 : 台湾、中国、韓国、フィリピン、  
インドネシア  
レベル : 初級から上級

参加学習者 : 5名 (台湾1名、中国1名、韓国1名、フィリピン1名、インドネシア1名)  
ボランティア : 6名  
外部協力者 : 1名 (名古屋市港防災センター)

## 学習者の状況

全員地震国出身で、  
自国において地震  
体験をしている。

## 学習者の声

名古屋は安全か?

## 目 標

地震から身を守ることが  
できる。

## 活動の流れ

1日目 : 9月30日(金) 12 : 20~14 : 30 (130分)		
活動 1	60分	地震を知る
活動 2	20分	地震体験をする
活動 3	30分	煙避難を体験する
確認 1	20分	今日学んだことをふりかえる
2日目 : 10月7日(金) 13 : 30~15 : 00 (90分)		
活動 4	15分	1日目の復習
活動 5	20分	地震が起きたらどうする?
活動 6	15分	寝ている場所は安全か?
活動 7	20分	家具の固定と非常持出品
確認 2	20分	今日学んだことをふりかえる
3日目 : 10月14日(金) 13 : 30~15 : 00 (90分)		
活動 8	20分	避難場所を確認する
確認 3	55分	わかったことをまとめる
活動 9	15分	学んだことを発表する

## 事前の準備・下調べ

- 防災センターと打合せをする。(内容・ふりかえり場所の確保等)。
- 必要な物(ハザードマップ、家具固定用具、非常持出品等)を取り寄せる。
- テキストを作成する。

活動1

地震を知る

防災センターの「地震を知る」コーナーを見学し、パネルや家具の固定サンプルを見ながら、ボランティアと一緒に地震について学びました。



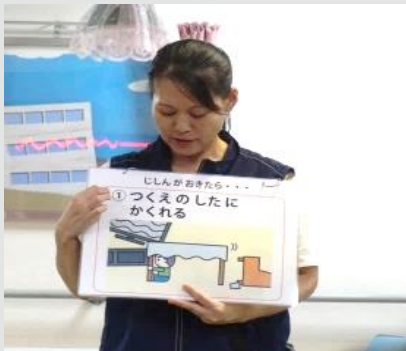
用意したもの

ワークシート

活動2

地震体験をする

地震体験室において、専門家から地震が起きたらどうすればいいかを聞き、震度7の地震を2グループに分かれて体験しました。



学習者からこんな日本語ができました

地震はこわい。



次のことばを説明しました

家具の固定・南海トラフ・プレート



学習者からこんな日本語ができました

大きい揺れでこわかった。



こんな日本語を伝えました

- 手・鞆・本で頭を守る。
- 机の下にもぐる。



次のことばを説明しました

119番

### 活動3

## 煙避難を体験する

1. 煙避難体験室において、火事が起きたときの避難姿勢や避難方法を学びました。
2. 伊勢湾台風のことが分かるパネルや3D映像体験で、台風や地震の時の津波の恐ろしさを学びました。



### 確認1 今日学んだことをふいかえる

今日の体験で何を学んだかを話し合い、ワークシートに記入しました。

用意したもの

ワークシート



### 活動4

## 1日目の復習

地震とは何か、地震の起きるメカニズムなど、パネルやテキストを使って1日目の復習をしました。



用意したもの

パネル  
テキスト



学習者からこんな日本語ができました

- 地震体験できてとても良かった。
- 知らないことをたくさん学んだ。



こんな日本語を伝えました

- 体を低くする。
- 煙を吸ってはいけない。



次のことばを説明しました

避難場所・消火器



学習者からこんな日本語ができました

- 火事の時は119番に電話する。
- 体を低くする。
- 煙を吸ってはいけない。



学習者からこんな日本語ができました

- 新しいことを勉強した。
- 難しい言葉がある。



ここがポイント

ボランティア丸となって入念な準備をしたことは本当に頭が下がります！一方、持続的な活動のためには無理なく気楽にできることも大切。すべてを提供せず、学習者自身に考えてもらうことも大切です。

## 活動5

## 地震が起きたらどうする？

屋内にいるときと、屋外にいるときを想定して、地震が起きた時にどうするか、また、揺れが収まったらどうするかを考えました。



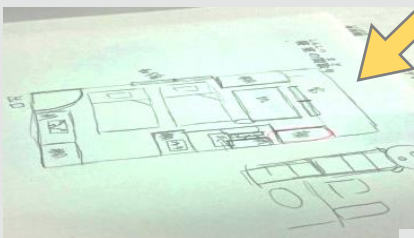
用意したもの

パネル

## 活動6

## 寝ている場所は安全か？

自分の寝室の間取りを書いて、地震が起きたときに倒れてくるものがないかなど、安全かどうかを考えました。



用意したもの

ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

物がいっぱいあり、危ない。



こんな日本語を伝えました

- ガラス窓の近くが危ない。
- ドアを開ける。



学習者からこんな日本語ができました

- 机の下にもぐる。
- ドアをあける。



こんな日本語を伝えました

エンジンを止め、キーをつけたままにする。



次のことばを説明しました

- ガスを止める。
- ブレーカーをおとす。
- 非常口
- 情報を得る。



## 活動7

## 家具の固定と非常持出品

1. 家具の固定用具を実際に手に取り、使い方を学びました。
2. ボランティアが用意した非常持出品を見て、どんなものを用意するといいか学ぶとともに、非常食(缶詰パン)の試食をしました。



用意したもの

家具の固定用具  
非常持出品



学習者からこんな日本語ができました

非常持ち出しと備蓄品とは違う。



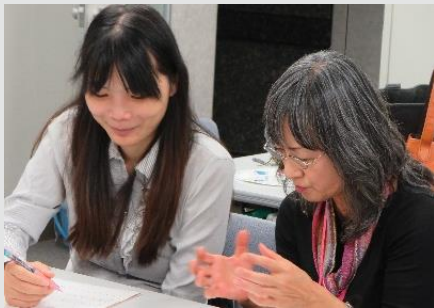
次のことばを説明しました

家具の固定・非常持出品・突っ張り棒  
スイッチボール(ブレーカー自動遮断装置)

## 確認2

## 今日学んだことをふりかえる

地震について覚えたことば、地震に備えて実行したいことなど、今日学んだことをふりかえりました。



学習者からこんな日本語ができました

- 突っ張り棒
- (非常食は)味がいろいろです。
- 防災用品は認識しました。
- 非常用品を準備する。
- ロープ準備しての方がいいですか。

## 活動8

## 避難場所を確認する

1. 住んでいる所のハザードマップの見方を学び、各自の避難場所を確認しました。
2. 寝室の間取りをみて、安全確認をしました。



用意したもの

ハザードマップ  
寝室の間取り



学習者からこんな日本語ができました

町内会へ入らないとハザード  
マップは貰えないの？



こんな日本語を伝えました

- 自分の寝室は安全ですか？
- 避難場所を確認しよう。



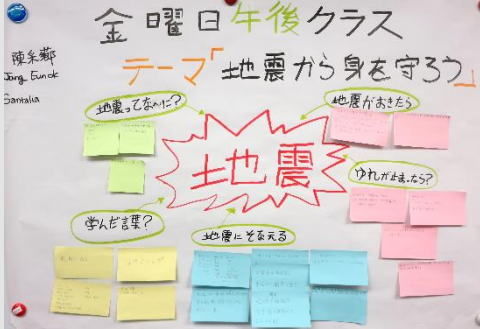
次のことばを説明しました

ハザードマップ

### 確認3

## わかったことをまとめる

- 地震について学んだことを5項目（①地震ってなに？  
②地震がおきたら ③ゆれがおさまったら ④地震に  
そなえる ⑤学んだことば）に分けて付箋に書きました。
- 各自で書いた付箋を5項目に分けて、模造紙に貼り付  
けてまとめました。



用意したもの

付箋、模造紙、  
サインペン



学習者からこんな日本語ができました

- うちの横の公園は1番大きい避難場所。
- ヘルメット家にはない。
- ブレーカーは？（→落とす）  
ガスは？（→閉める）  
（↑ことばの確認）

### 活動9

## 学んだことを発表する

地震について学んだ事を、今回のプログラムに参加して  
いない学習者やボランティアの前で一人ずつ発表し  
ました。



学習者からこんな日本語ができました

- とりあえず絶対お水(が必要)です。
- いちばんinterest is 「火事だ」。  
（火事のとくに「火事だ！」と言って  
危険を知らせるといことが、とても  
印象に残ったようです。）

## 実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- あらかじめ、学習者からテーマを選んでもらっていたため、興味を持って取り組んでもらえた。
- 命を守るという大切なテーマなので、学習者が学んだことを今後活かしてもらえと思う。
- 参加者が少なかったのが残念。できるだけ多くの学習者に参加してもらいたい。



### 大切だと思ったこと

学習者がどれだけ理解し、自分のものとして発話できるかということ。  
そのためにはボランティアの役割がとても大きい。

## 10 地震から身を守ろう 活動案

テーマ/目標	地震から身を守ることができるようになる。		
テーマ決めの経緯	日本は地震の多い国なので、日頃から地震に備え自分の身を守る事を知るのは、とても、大切である。 そこで身を守る術を知りその為に必要な日本語を学ぶ事をねらいとした。 (テーマは、学習者によるアンケートにより選んだ。)		
活動場所	港防災センター	あいち国際プラザ	あいち国際プラザ
協力者	港防災センター	—	—

### 1日目：9月30日(金) 13:30~15:00 (90分)

活動のねらい(時間)	準備・教材	活動方法(対話と協働)
活動1 (10分) 地震とは何か?	—	1. 地震を知るコーナーで過去の震災の映像・パネルを見る。 2. 映像・パネルから何が分かったか、どう感じたかを話し合う。
活動2 (60分) 地震を体験する	—	地震体験室において、震度7クラスの地震を实际体験し、その時の初期行動について学び、どうすべきかを考える。
活動3 (10分)	—	各学習者の国の地震状況を話す。
確認1 (10分) ふりかえり	—	地震を实际に体験して、地震とは何か感じたことを話し合い、理解を深める。

### 2日目：10月7日(金) 13:30~15:00 (90分)

活動のねらい(時間)	準備・教材	活動方法(対話と協働)
活動4 (20分) 地震とは何か?	過去の地震の写真・パネル	1. 1日目の復習(地震とは何か、1日目に体験と映像で学習したことを踏まえ話し合う。) 2. 地震について得た知識の再確認
活動5 (30分) 地震に備える (地震が起きたら街、部屋の中はどうか?)	場所のイラスト 部屋の間取り等	屋外(例えば、スーパー・ビルの中・地下街)にいた時、屋内にいた時、地震が起きたらどうなるかをシミュレーションする。
活動6 (20分) 地震に備える (地震後の余震と備え)	家具の固定用品	1. もし学習者が〇〇にいたら、どうすべきかを考えて話し合う。 2. 地震への備え(家具の固定、安全な寝室)についても話し合う。
確認2 (20分) ふりかえり	—	1. 地震について分かったことを話し合う。 2. 地震が起きた時、身を守るにはどうすべきかを話し合う。

### 3日目：10月14日(金) 13:30~15:00 (90分)

活動のねらい(時間)	準備・教材	活動方法(対話と協働)
活動7 (20分) ふりかえり 地震から身を守るにはどうしたらよいか?	イラスト	1. 1日目、2日目の活動で分かったことを話し合う。 2. 身を守る為に何をしたら良いか、状況別に話し合う。
活動8 (30分)	模造紙 マジック ワークシート 付箋	地震が起きた時、身を守る為にすべき事をボランティアと相談しながら決め、ポスターに、地震から身を守るにはどうしたらよいかをいくつかの項目にまとめる。
活動9 (20分)	—	グループ内で発表し合い、ポスターに書かれたことについて質疑応答する。
確認3 (20分)	—	活動全体をふりかえり、どうしたら地震から身を守ることが出来るかを話し合う。



# 地震から身を守ろう!!

【目標】地震が起きた時、自分で身を守ることが出来るようになる

国際プラザ金曜午後クラスとは?

場所:国際プラザ2F研修室 日時:毎週金曜日午後1:30~3:00

学習者:中国・韓国・台湾・フィリピン・インドネシア・スペイン・ロシア

日本語レベルは入門者から上級者N1受験希望者まで

ボランティア:男性3女性15, 学習者に寄り添い学習者の希望に添った教室

## 1日目 地震ってなあ〜に?

2016/9/30 13:00~14:30 名古屋市港防災センター

活動1

職員さんの説明



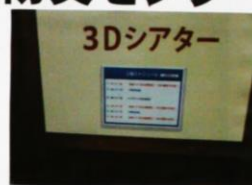
分かりやすかった



活動2

震度7の体験

こわかった〜!



活動3

本当の津波のよう

## 2日目 地震が起きたらどうする?

2016/10/7 13:30~15:00 国際プラザ2F研修室

活動4,5



活動6 寝室の間取りを



書きました



活動7 家具の固定・非常食の試食

## 3日目 ふりかえり

2016/10/14 13:30~15:00 国際プラザ2F研修室

活動8

ハザードマップをみて

避難場所を確認しました



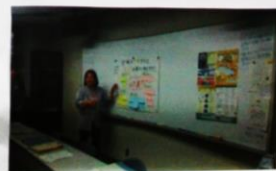
活動9 地震について

学んだ事を書き留めました



活動10

皆の前で発表しました





教室名	実践活動テーマ	ページ	教室開催日時	開催場所
あいち国際プラザ にほん語教室	家庭の防災	66	火曜日 13:30～15:00	名古屋市中区
	地震から身を守ろう	74	金曜日 13:30～15:00	
	地震について知ろう	52	金曜日 19:00～20:30	
	ごみの分別について学ぼう	6	土曜日 10:30～12:00	
	食品表示の見方を学ぼう	22	土曜日 14:00～15:30	
あかさたな 日本語教室	人を助ける	38	木曜日 10:30～12:00	名古屋市中区
刈谷市国際交流協会 日本語教室	母国にいる親しい人に 郵便物を送ろう	14	木曜日 10:00～11:30 土曜日 19:00～20:30 日曜日 10:00～11:30	刈谷市
江南市国際交流協会 「ワイワイ日本語教室」	自転車のルールを知ろう	30	月・金 10:30～11:30 月～金 13:00～14:00	江南市
日本語教育 リソースルーム	AEDを使えるようになるう	46	—	名古屋市中区
にほんごひろば	地震に備える	58	木曜日 10:00～11:30	安城市